

新聞労連

2025
10.1
WED

専門紙・スポーツ紙賞

ジャーナリズム大賞
正田桂一郎賞

募集
開始

締め切り
12月23日(火)
朝10時まで必着

●選考委員

安田菜津紀さん (Dialogue for People副代表／フォトジャーナリスト)

浜田敬子さん (前Business Insider Japan統括編集長。元アエラ編集長)

青木理さん (ジャーナリスト・元共同通信記者)

臺宏士さん (元毎日新聞記者・『放送レポート』編集委員)

【対象】

24年12月23日～
25年12月23日の
期間中に
掲載・配信された記事、写真

詳細・応募用紙はこちら→
<https://qr.paps.jp/QNATy>



主催

新聞労連

電話：03-5842-2201

新聞労連 加盟組合 御中

新聞労連

第 30 回ジャーナリズム大賞

第 20 回疋田桂一郎賞

第 7 回専門紙・スポーツ紙賞

10 月 1 日（水）、募集開始のお知らせ

昨年は **40 点** の応募があり、そのうち 専門紙・スポーツ紙労組 からは 6 点でした。
今回も、専門紙・スポーツ紙も含め多くの皆さんからの応募をお待ちしております。

●募集期間

2025 年 10 月 1 日（水）～12 月 23 日（火）**朝 10 時まで必着**

注）ご応募は 電子データ（PDF ファイル）

【ジャーナリズム大賞】 大賞、優秀賞、特別賞

新聞労連ジャーナリズム大賞は、当初新聞労連ジャーナリスト大賞として、1996 年に制定されましたが、2012 年に名称変更しました。全国紙、地方紙を問わず優れた記事や取材者を正に評価し、激励するために制定した顕彰制度で、新聞労連加盟組合の組合員が取り組んだ「平和・民主主義の発展」「言論・報道の自由の確立」「人権擁護」に貢献した記事・企画・キャンペーンなどが選考対象です。

「疋田桂一郎賞」は、2006 年に創設されました。疋田さんは、新聞取材と報道の本質を徹底的に追究して、ジャーナリズムの世界に大きな影響を与えました。「ある事件記事の間違い」などを執筆し、生涯一記者を通した疋田氏のご遺族から提供された基金で運営されています。主に「人権を守り、報道への信頼増進に寄与する報道」に対して授与されます。賞状・賞金のほか、レリーフを贈呈します。

【専門紙・スポーツ紙賞】

新聞労連では、2019 年から労連加盟の専門紙やスポーツ紙労組の皆さんの記事や紙面を対象にした「専門紙賞」を創設致しました。2022 年に、専門紙・スポーツ紙賞に名称変更するとともに、**選考基準**を明確に致しました。

【専門紙・スポーツ紙賞 選考基準】

- ・専門紙…一般紙がまだ注目していない専門的な観点から書かれた記事、産業界の展望を見据えた連載、その業界だからこそわかる注意点や危険性の警鐘、公益性や社会性をふまえたもの、問題解決に資する記事、対象とするテーマを専門紙らしく深掘りし追究している記事など
- ・スポーツ紙…特徴のある紙面割や見出し、迫力の写真や一瞬をとらえた写真などの他、優れたインタビュー、選手の心身の安全（ドーピング他）や各スポーツ界の風土からくる問題（ハラスメントなど）に迫った記事、各界でくすぶる問題についての提言など

世界陸上が開催され（11月にはデフリンピックも開催！）、多くの競技にスポットライトが当たった2025年を振り返ってみて下さい。

競技大会がどのように運営されているのかなど読み解く報道、高校球児の活躍する瞬間をとらえた写真、各スポーツ大会で懸念される問題点や団体のガバナンスコードについての問題提起など、悩みながら書いた記事、キラッと光るその見出し、見事なまでの紙面割、感激のインタビューなど、数多く世の中に送り出してきたはずです。

専門紙では、一般紙がまだ注目していない専門的な観点からかかれた記事、先の展望まで見据えた連載、その業界だからこそわかる注意点や危険性の警鐘など、特徴的な内容にも光を当てる時です。

応募について（全賞共通）

●対象作品（自薦他薦は問いません）

原則として2024年12月23日（前回の締め切り日）～25年12月23日の期間中に掲載・配信されたもので、締め切り日時点で連載中のものも可。新聞労連加盟組合の組合員が取り組んだ作品。グループや班で執筆した場合、メンバーに組合員がいれば大丈夫です。労組を通じてのご応募でも、組合員個人からのご応募も両方OKです。応募作品は全て各労組別に、作品名と応募者名を連絡・確認させていただいております。

<応募先>

メールアドレス：<shinken@shimbunroren.or.jp>

メールタイトル：ジャーナリズム大賞係

●応募方法

応募（推薦）理由と、記事の意義や特徴（取材動機・目的、紙面割のポイント、読者の反響などの「押し理由」）を指定**応募用紙**に記入し、作品を電子データ（PDF ファイル）で送って下さい。メールのほか、大容量のファイル転送サービス（ギガファイル便等）の利用も可能です。

【応募用紙】

<https://qr.paps.jp/QNATy>



<応募方法詳細>

1 労組から複数のご応募も問題ありません。

作品を PDF ファイルにする際には、**作品ごとに**選考委員が読みやすいようになるべく 1 つにまとめてください。記事個々を PDF にして 10 個も 20 個も添付すると選考委員は 10 回も 20 回もファイルを開閉して読まなくてはならなくなってしまいます。

記事 PDF が、数個程度の場合は、読む順番がわかるようなファイル名（例えばプロローグ、パート 1、パート 2、エピローグなど）にするか、読む順番通りに**番号を振って**ください。

また、ネット掲載記事などでリンクを張る場合は、期限をご確認ください。期限切れで読めなくなっていたり「この先有料」となっていると読めませんので、そのような場合は PDF にしてください。

●選考委員

安田菜津紀さん（Dialogue for People 副代表／フォトジャーナリスト）

浜田敬子さん（前 Business Insider Japan 統括編集長。元アエラ編集長）

青木理さん（ジャーナリスト・元共同通信記者）

臺宏士さん（元毎日新聞記者・『放送レポート』編集委員）

●表彰 各賞とも応募作品の中から 4 人の選考委員が選びます。

専門紙・スポーツ紙賞 賞状及び賞金

大賞・優秀賞・特別賞・専門紙賞 それぞれに賞状及び賞金

疋田桂一郎賞 賞状及び賞金と盾

みなさんの仕事を振り返ってみてください。「これ、応募してみようかな」と思った方は、どうぞ！**1 2 月の締め切りまで、まだ時間もあります。**これからの企画や連載もあるでしょう。**多くのご応募をお待ちしております。**

●問い合わせ先 新聞労連（担当書記：及川）

TEL:03-5842-2201 / E-Mail: shinken@shimbunroren.or.jp

キラッ

専門紙・スポーツ紙賞 ジャーナリズム大賞

ドッカーン!!!



来たれ！自信作

一般紙がまだ注目していない専門的な観点からかかれた記事

様々な視点からの提言

平和・民主主義の発展

その業界だからこそわかる注意点や危険性の警鐘

スポーツ界の問題点を掘り下げた記事

スポーツ紙ならではの紙面割やインタビュー

人権擁護

ドッ！
迫力の写真

先の展望まで見据えた連載

おすすめ記事



全賞(新聞労連大賞、疋田桂一郎賞、専門紙・スポーツ紙賞) 共通応募用紙

労組名		応募者 お名前	
応募者連 絡先メール		応募者連絡先 電話	
FAX		受賞の連絡を受けることができる電話 ↑	

掲載紙名			
記事タイトル			
掲載日・期間		1 朝刊	
配信日		2 夕刊	
		3 配信	
		4 その他	

チームや班で執筆の場合	〇〇新聞社編集局社会部「××問題」取材班 などフルネーム
その名称	
代表者お名前 ふりがな	

執筆者名前 ふりがな	部署	入社○年目

注) チームや班で執筆した場合、全員のお名前をご記入下さい。応募時1名の記載で、受賞時に班やグループによる執筆と判明した場合、再協議となる場合がございます。

記事・連載企画の意図

記事・連載企画の主な内容

記事を執筆した立場、目線、取材した内容や、「1～5回目までは××、6～10までは△△の二部構成とし、一部では～、二部では～」など具体的に。

他薦の場合、推薦者からの一言（推薦理由）

送信年月日